

HEART NEWS

2023年4月1日発行

Vol. 58

大阪市立総合医療センター循環器センター

<http://cardiovasc-ocgh.sakura.ne.jp>



侍ジャパン、凄かったですね！ 当院1階の外来待合にあるTVの前にも、最後に登板した大谷選手を見守るためにたくさんの方が集まりました。

4月に入り、まだ肌寒い日の続くこのごろ、地域医療機関の先生方は、いかがお過ごしでしょうか。新型コロナウイルス感染症もようやく減少し、5月8日から季節性インフルエンザと同等の5類の移行が決まりました。

循環器センターは、これまで心筋冷凍焼灼術(クライオアブレーション)、経カテーテル的大動脈弁留置術(TAVI)、大阪心不全地域医療連携会、経皮的中隔心筋焼灼術(PTSMA)、補助循環用ポンプカテーテル(インペラ IMPELLA)、低侵襲手術(MICS)、ロボット支援下心臓手術など超高齢化、低侵襲治療などの時代のニーズに迅速に対応できるよう心がけてきました。今回のVol.58では、2022年における循環器センターの実績をご案内いたします。

今年度はいよいよ透析患者の大動脈弁狭窄症のTAVIが開始されます。またFFR-CTの導入によりこれまで心臓カテーテル検査で施行していた虚血評価目的のFFR(冠血流予備量比)が冠動脈CTにて可能になります。

今後も、コロナとの共存を見据えて、これまで同様地域医療機関との連携強化に努め、どのような心血管疾患に対しても最先端の循環器医療を身近に提供できるよう、なお一層努力したいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

大阪市立総合医療センター 副院長 循環器センター長 循環器内科部長
成子 隆彦

特集：循環器センター 2022年を振り返って

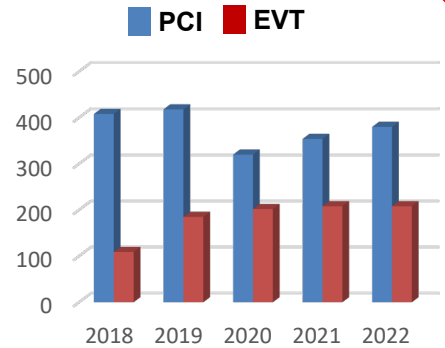
循環器内科の2022年の実績

成子隆彦がセンター長として循環器センターを運営しています。昨年と同様にコロナ禍での診療となりました。昨年件数が減少していた部門はやや回復傾向です。

今後も地域医療機関との連携強化に努め、どのような心血管疾患に対してもレベルの高い医療を提供できるよう、なお一層努力したいと思っております。

心臓カテーテル部門

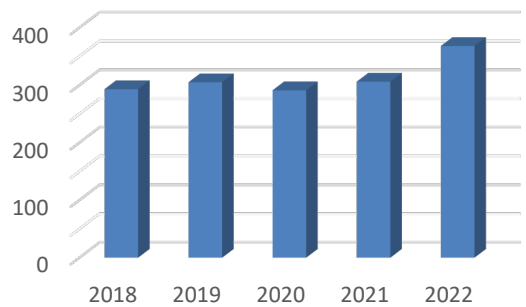
成子、松本、仲川、齋藤、加島、吉井が中心となって行った心臓カテーテル治療（PCI）は、コロナ禍で減少したものの、徐々に増加、下肢治療（EVT）は引き続き増加傾向です。虚血評価目的のFFR（冠血流予備量比）を75例、心筋生検を37例施行しています。2016年4月より開始しました経カテーテル的大動脈弁留置術（TAVI）は60例施行しています。閉塞性肥大型心筋症に対する経皮的な中隔心筋焼灼術（PTSMA）を6例施行しています。また2021年7月から開始した僧帽弁閉鎖不全症に対するカテーテル治療（MitraClip）10例、同年8月から開始した卵円孔開存症閉鎖術は8例施行し、それぞれ良好な成績を収めています。



不整脈治療部門

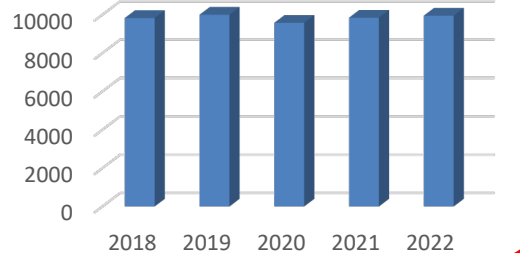
占野、林、田村が中心となりアブレーション治療の件数は368例で昨年より増加しています。持続性心房細動に対する冷凍凝固アブレーションの適応追加に伴い、初回治療における冷凍凝固アブレーションの割合が56%と半数以上となりました。デバイス治療については、ペースメーカ植込み後の患者様の心機能低下を減らすべく、2019年より刺激伝導系ペーシング（左脚領域ペーシング）を行っております。2020年10月から開始した左心耳閉鎖術は7例施行し、合併症なく留置に成功しています。実績の詳細は、別紙をご覧ください。

アブレーション治療



心臓超音波検査部門

阿部、松村、野村と生理検査技師が中心となって頑張ってくれました。昨年の成人心臓超音波検査数は、コロナ禍でしたが9952例、経食道エコー検査400例で昨年より増加しています。弁膜症については、他のどの施設よりも精度の高い診断を行っていると思っております。



循環器内科外来担当医のご案内

	月	火	水	木	金
午前	阿部	松村	松本直己 (ペースメーカ)	仲川	成子
午後	阿部	松村			成子
	占野(ペースメーカ)				林

地域初診外来

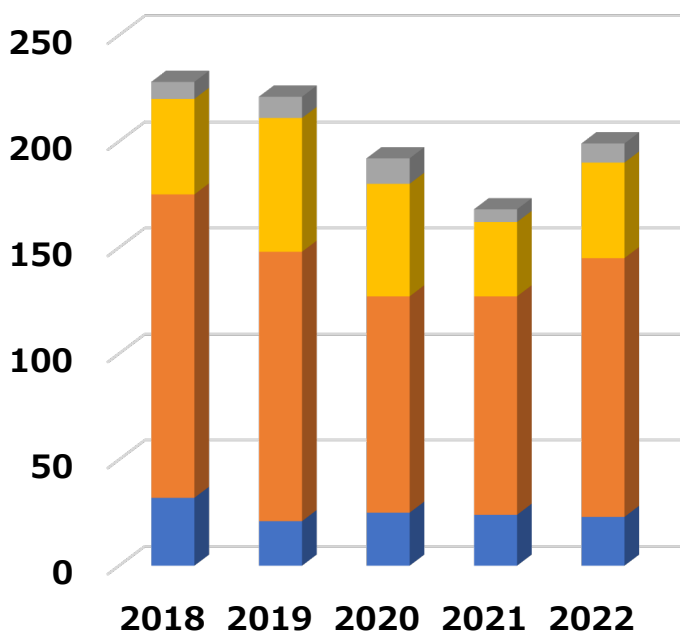
	月	火	水	木	金
午前	成子	齋藤	阿部	成子	松本 亮 林(不整脈)
		齋藤(末梢動脈)	占野(不整脈)	仲川(肥大型心筋症) 加島/吉井(肺高血圧)	松本 亮(TAVI)
午後					

心臓血管外科の2022年の実績 —コロナ禍からの回復傾向—

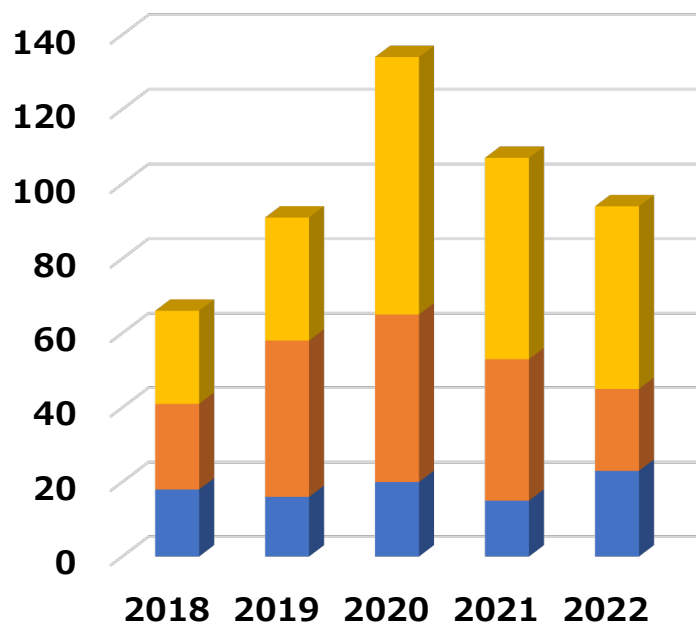
2020年に始まったCOVID-19の流行ですが、当院は大阪市立の中核病院としての役割を果たすためCOVID-19診療体制をとってまいりました。その影響を受けて2020年、2021年は手術症例数が減少しておりました。2022年はCOVID-19診療が落ち着いてきたこともあり、急性大動脈解離などの緊急手術の受け入れも回復し、心臓大血管手術件数は前年に比較して増加しました。

2022年も当院の方針の一つである低侵襲、小切開手術を行ってきました。弁膜症手術では単独大動脈弁狭窄症に対しては85%の症例で**経カテーテル大動脈弁留置術(TAVI)**を施行しています。また単独僧帽弁閉鎖不全症に対しては7割以上の症例にロボット支援下手術を含む**低侵襲心臓手術(MICS)**を施行しました。また心房細動症例に対する**胸腔鏡下左心耳切除術**を開始し、循環器内科で行っている経皮的左心耳閉鎖術(Watchman留置)に加えて低侵襲な左心耳閉鎖術の選択肢が増加しました。

最近5年間の心臓大血管手術数



最近5年間の末梢血管手術数



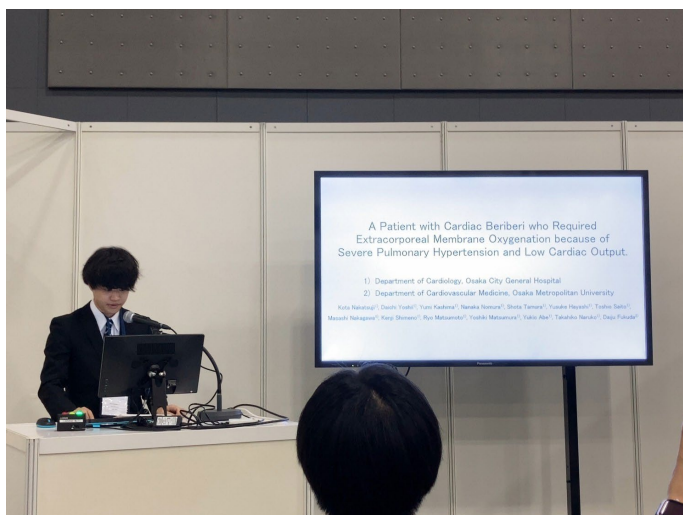
- CABG
- 弁膜症
- 大血管
- その他
- その他末梢血管
- 腹部大動脈瘤・腸骨動脈瘤ステントグラフト等
- 腹部大動脈瘤・腸骨動脈瘤人工血管置換

心臓血管外科外来担当医のご案内

	月	火	水	木	金
午前	青山/岸本	岸本	阪口	初診外来 (交代制)	尾藤
午後	青山/岸本	岸本	阪口	再診 (交代制)	尾藤

今号の循環器日記

我々循環器センターでは、臨床・教育・研究のいずれもが欠けることのないように力を入れています。国内学会をはじめ国際学会でも発表を行ったり、教育プログラムの運営を行ったりしています。写真は、3月17-19日に久しぶりにハイブリッドではなくオンサイトで福岡にて開催された第87回日本循環器学会総会で撮影したものです。非常に盛会である中、中辻医師（左上）と野村医師（右上）が症例発表をしましていました。左下は野村医師の発表を応援するため集まった仲間の楽しそうな集合写真です。右下は同時時間帯に他の会場で発表している阿部医師（私）ですが、おかげで当院の仲間は誰もいませんでした（苦笑）。



当院循環器内科、心臓血管外科は近隣の先生方からの循環器救急疾患をさらに迅速に受けられることができるようにするため、循環器センター直通電話（ハートライン）を設置しております。

ハートライン（循環器センター直通電話）

06-7662-7979

その他の場合は、御面倒ですが、06-6929-1221（病院代表）から呼び出して下さい。